

千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念
Special Exhibition to Celebrate 25 Years and the Grand Reopening of
Chiba City Museum of Art

クロニクル 1995-2020
chronicle 1995-2020

宮島達男 | クロニクル 1995-2020
Tatsuo Miyajima: Chronicle 1995-2020

観覧料：一般1,200円(960円)、大学生700円(560円)、小・中学生、高校生無料
*アートミュージアム割引：金・土曜日の18時以降は観覧料半額 *10月18日(日)は「市民の日」につき観覧無料
*障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 *①内は約売額、市内在往85歳以上のの方の料金 *前売券は
千葉市美術館ミュージアムショップ(9月18日まで)、ローソンチケット(Lコード:31988)、セブンイレブン(セブンチケット)
千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」都営駅「千城台駅」の窓口にて9月18日まで販売(9月15日以降は
当日券販売) *本展チケットで、5階常設展「千葉市美術館コレクション名品選 2020」もご覧いただけます。

Commissioned by Gadsden & Mitsuhashi (1989) / 2014
Courtesy of SoMa, The Gallery of Photography, Museum of Contemporary Art

千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念
Special Exhibition to Celebrate 25 Years and the Grand Reopening of
Chiba City Museum of Art

クロニクル 1995-2020
chronicle 1995-2020

宮島達男 | クロニクル 1995-2020
Tatsuo Miyajima: Chronicle 1995-2020

2020年9月19日[土]—12月13日[日] 千葉市美術館
開館時間：10:00—18:00(金・土曜日は20:00まで) *入場受付は閉館の30分前まで
休室日：10月5日(月)、10月19日(月)、11月2日(月)、11月16日(月)、12月7日(月)
主催：千葉市美術館 協力：Akio Nagasawa Gallery, SCAI THE BATHHOUSE 助成：芸術文化振興基金
September 19 - December 13, 2020 Chiba City Museum of Art

chronicle 1995-2020

宮島達男 | クロニクル 1995-2020

宮島達男は、LED(発光ダイオード)のデジタル・カウンターを使用した作品で高く評価され、世界で活躍する現代美術作家です。1980年代より宮島は、「それは変化し続ける」「それはあらゆるものと関係を結ぶ」「それは永遠に続く」という3つのコンセプトに基づき、これまで30ヶ国250ヶ所以上で作品を発表してきました。作品のモチーフであるデジタル数字は命の輝きをあらわし、0が表示されず1から9の変化を永遠に繰り返すことで、人間にとって普遍的な問題である「生」と「死」の循環を、見る者に想像させます。

本展は千葉市美術館の間館25周年記念として、首都圏の美術館では12年ぶりに開催される大規模な個展です。1996年の間館記念展「Tranquility-静謐」に出品された(地の天)の制作だけでなく、パフォーマンスの再開、世界各地で参加者と協同で行われる「時の蘇生・栂の木プロジェクト」の始動など、1995年は重要な転換期にあたります。本展は1995年を起点とし、時間と空間に深く関わる作品表現の本質に、「クロニクル(年代記)」というテーマから迫ろうとする展覧会です。LED作品、パフォーマンス映像、プロジェクトを軸とする作品のヴァリエーションは、四半世紀の複層的な展開を感じさせるとともに、世界の不確実性に作家が全身全霊をかけ、身体と感性を対峙させてきた事実が伝わるはず。

2000年代に入り、宮島は「Art in You(アートインユー)」を提唱しています。「アートはあなたの中にある」と訳され、誰もが創造性を生み出すことを信じてやまない独自の芸術思想といえます。この宮島のメッセージは、自然災害や国際紛争など、さまざまな困難に直面しても歩みを止めず努力してきた現代社会の人々に、今こそ必要とされるものかもしれません。生きることの意味、そして平和と共生の意義を、他者との開かれた対話を通して問い続けてきた宮島の豊かな世界観は、未来への新たな視座を投げかけることでしょう。

◎宮島達男と(地の天) Tatsuo Miyajima and The Sky of the Ground

宮島達男は、1988年の第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ(アベルト部門)で高い評価を得て以降、1999年の第48回ヴェネツィア・ビエンナーレをはじめ、国内外の展覧会へ多数参加している日本を代表する現代美術作家です。1995年に滞跡である飯倉康二の訃報を受け、追悼の意を込め制作された(地の天)は、実用化されて間もない青色LEDを使用した大規模なインスタレーション作品であり、千葉市美術館の収蔵作品として残されています。

(地の天) 1995年 ©Tatsuo Miyajima Photo by Nobuzada Omoto (再掲photo)



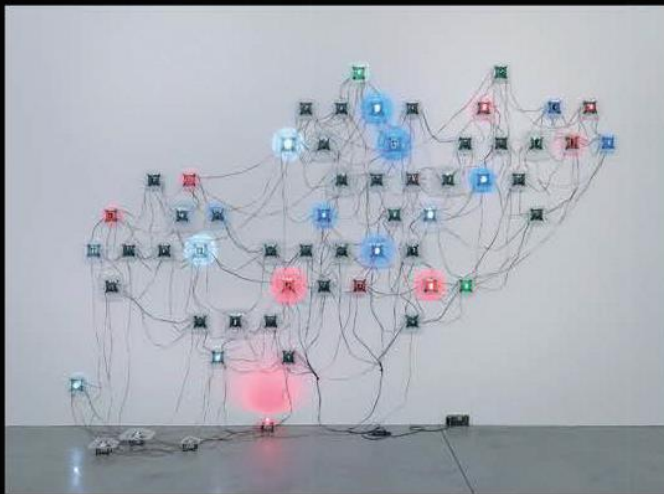
(C.T.C.S. Flower Dance no.4) 2017年



(Counter Skin on Faces) 2019, 2020年 Courtesy of Akio Nagasawa Gallery Photo by Silang Ma

◎コラボレーション Collaboration

宮島は1987年に、「それは変化し続ける」「それはあらゆるものと関係を結ぶ」「それは永遠に続く」という3つのコンセプトを発表しました。社会情勢を反映し、芸術や物理学、数学、仏教思想、東洋哲学など複数のジャンルを包含する宮島の作品は、鑑賞者とも分かちがたい関係を結びます。本展では、千葉市美術館が所蔵する絵画や写真とのコラボレーションをはじめ、展示会場だけの特別な空間が生み出されます。所蔵作品展示作家:河津清、曹井波、杉本博司、中西夏之、李禹煥



(Life (le corps sans organe)-no.18) 2013年 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo by Ken Adlard



(Counter Voice in Chinese Ink) 2018, 2020年 Courtesy of Akio Nagasawa Gallery Photo by Silang Ma

◎パフォーマンス Performance

初期の活動を代表する作品は、東京藝術大学在学中の1980年代前半に、自然や街中でパフォーマンスを行った(NA, AR)「(Nature and Artificiality(自然と人工))の路」です。叫ぶ、寝転がるといった外部環境に対する行為の数々は、世界と自己の関係性についての探究であったといえます。天文台で知られるイギリスのクラニッジ訪問を機に、宮島は1995年よりパフォーマンスを再開し、自身や他者の身体を用いた映像作品の発表を続けています。



(時の蘇生・栂の木プロジェクト) 第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ 1999年 ©Revive Time: Kaki Tree Project

◎「時の蘇生・栂の木プロジェクト」"Revive Time: Kaki Tree Project"

1995年に長崎を訪れた宮島は、原爆医の海老沼正徳との出会いをきっかけに、破損した軸の木2世の苗木を植樹する「時の蘇生・栂の木プロジェクト」を開始します。アートと社会をつなぐプロジェクトを多数行い、教育活動にも携わってきた宮島にとって、人間が本来もつ「想像力」と「衝動力」は、社会の変革への大きな原動力です。千葉市美術館では、本プロジェクトに映像作家の林勇気を招聘し、2021年2月には千葉県で初となる栂の木2世の植樹を予定しています。

※館内に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております。
 ・休日のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
 ・マスク着用、手洗い・手指消毒用の徹底にご協力ください。
 ※内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

【同時開催】

「千葉市美術館コレクション名品選2020 特展 柳倉康二・宮島達男」ほか
 9月8日(火) - 12月28日(月) 5階常設展示室 休室日: 第1月曜日

「つくりかけラボ01 藤原幹子」おはなこうしん
 7月11日(土) - 12月13日(日) 4階子どもアトリエ 休室日: 第1月曜日。観覧無料

【次回展予告】

日・スロバキア・日・チェコ交流100周年
 「プラチスラバ世界絵本原画展
 こにちは! チェコとスロバキアの新しい絵本」
 2021年1月5日(火) - 2月28日(日)

川村コレクション受贈記念
 「田中一村展 - 千葉市美術館所蔵全作品 -」
 2021年1月5日(火) - 2月28日(日)

「千葉市美術館コレクション名品選2020」
 2021年1月5日(火) - 1月31日(日)

「つくりかけラボ02 志村信裕」影を捨てる
 2021年1月5日(火) - 4月4日(日)

「展覧会関連イベント」

◎「時の蘇生・栂の木プロジェクト」ワークショップ
 「アニメーション作品の出演者・住人になろう!」
 講師: 林勇気(映像作家)
 8月29日(土)、30日(日)
 5階ワークショップルームにて。定員24人(組) / 事前申込 / 申込締切8月12日(水) / 参加無料
 ※応募方法・料率などの詳細はホームページにてご確認ください
 ※応募多数の場合は抽選となります

◎講演会「四半世紀、これまでとこれから」
 講師: 宮島達男
 10月10日(土) 14:00より(13:30開場予定)
 11階講堂にて。先着80名(当日12:00より1階さや堂ホールにて整理券配布) / 聴講無料(要観覧券チケット)

◎アーティストトーク「脳科学とアートの出会い」
 出演: 宮島達男、中野信子(脳科学者)
 11月3日(火・祝) 14:00より(13:30開場予定)
 11階講堂にて。先着80名(当日12:00より1階さや堂ホールにて整理券配布) / 聴講無料(要観覧券チケット)

◎映画上映会
 「ヨーゼフ・ボイスは誰かを知る」
 12月5日(土)、12日(土) 14:00より(13:30開場予定)
 11階講堂にて。先着80名(当日12:00より1階さや堂ホールにて整理券配布) / 参加無料(要観覧券チケット)

◎市民美術講座
 「宮島達男の作品が映し出す生/死」
 講師: 森啓輔(当館学芸員)
 11月21日(土) 14:00より(13:30開場予定)
 11階講堂にて。先着80名。聴講無料

◎担当学芸員によるギャラリートーク
 10月14日(水) 14:00より
 ※要予約。申し込みする場があります。

【交通案内】

JR千葉駅東口より
 ・徒歩約15分
 ・バスのりば7番より大学病院行または南矢行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分
 ・千葉駅モータープール南方面「海川公園駅」下車徒歩約5分
 京成千葉中央駅東口より
 ・徒歩約10分
 奥友方面から車では
 ・京葉道路・安房東自動車道で習野木ジャンクションから大東津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市東方面へ約3km、広小路交差点近く
 ・地下に機械式駐車場があります。
 ・シェアサイクルスポットがあります。



千葉市美術館
 Chiba City Museum of Art
 〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8 Tel. 043-221-2311
 https://www.coma-net.jp